

第1回 政策評価・行政事業レビュー有識者会議資料

① 政府共通ウェブサイトについて

2023/03/30

国民向けサービスグループ

報告項目

- 政策の目的
- 目標設定
- アプローチ
- その他の取組
- 課題・今後の取組
- 体制

政策目的

政策の目的

統一ウェブサイトの構築

各府省のウェブサイトが改善する仕組みを提供

各省庁でバラバラに構築された政府ウェブサイトに対し、標準化・統一化を図ることで、利用者視点で利便性向上、システム担当者視点で費用/負荷軽減を目指す。

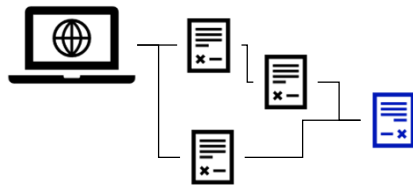
課題

目指す姿

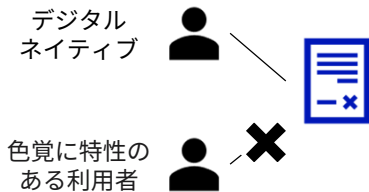
成果

利用者

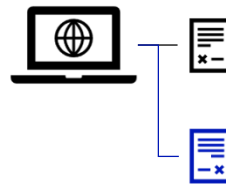
目的の情報へ
辿り着きにくい



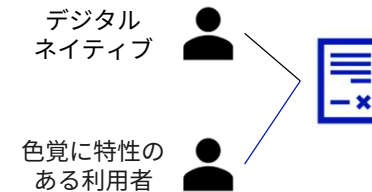
情報に対するアクセス
可能性に偏りがある



目的の情報へ
簡易に辿り着ける



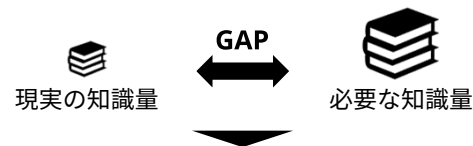
誰でも平等に情報へ
アクセス・利用可能



利便性
向上

システム担当者

スペシャリストでなく
業務負荷が高い



独力でGAPを埋めるため、
担当者の業務負荷が増加

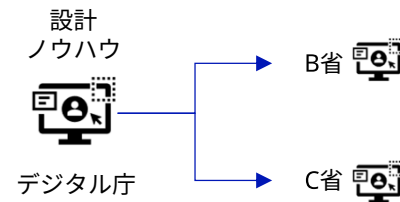
ノウハウが共有されず、
作業重複が存在



ノウハウを習得しやすく、
業務負荷を低減



ノウハウを共有し
重複排除による効率化



費用/負荷
軽減

目標設定

目標設定

府省庁ウェブサイトの現状

- 近年更新されたサイトは、ウェブサイトガイドブックに基づき構築されているが、スムーズに情報をみつけてたどり着ける状況でない
- 障害者・高齢者が支障なく必要な情報にたどりつけるためのウェブアクセシビリティが不十分なページが存在
- ウェブサイトガイドブック等既存のガイドラインのみでは、情報提供・発信には不十分
- ウェブサイトの情報発信への信頼性が低いことが、DXへの信頼性低下を招く恐れ

デジタル庁に求められる対応

- デジタル庁においては、デザインシステムを活用し、デジタル庁ウェブサイトの継続的な改善を実施（運用を多くの人が行っても、使いやすさが保てる仕組みづくり）
- デジタル庁のデザインシステムを活用することにより、各府省のウェブサイトのユーザビリティ・ウェブアクセシビリティ向上に貢献
- 各省庁を巻き込みウェブサイトが改善する仕組みを検討展開していく。

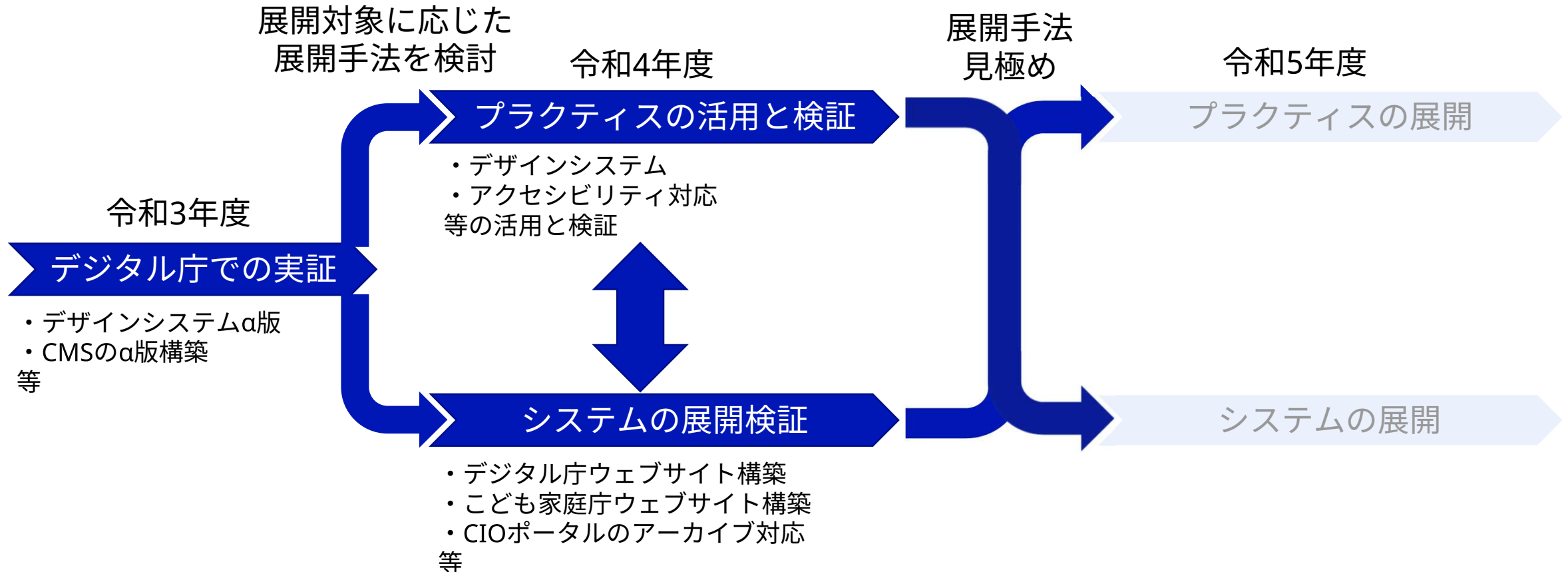
アプローチ

進め方の概略

統一ウェブサイトの構築

各府省のウェブサイトが改善する仕組みを提供

デジタル庁にて実証した成果物・結果に対し、適切な展開手法を検証・見極めを行った上で複数他省庁等へウェブサイトの標準化・統一化を展開。



標準化・統一化の展開手法

展開先の要件、規模、数等に応じて適切な展開手法を選定

システムの展開

ウェブサイトシステム開発・運用の展開

	A省	B省
開発 運用	デジタル庁	デジタル庁
CMS	共通CMS	共通CMS
インフラ	ガバメントクラウド	ガバメントクラウド

プラクティスの展開

プラクティス・ノウハウを展開



ガイドブック等



ソースコード、設定等



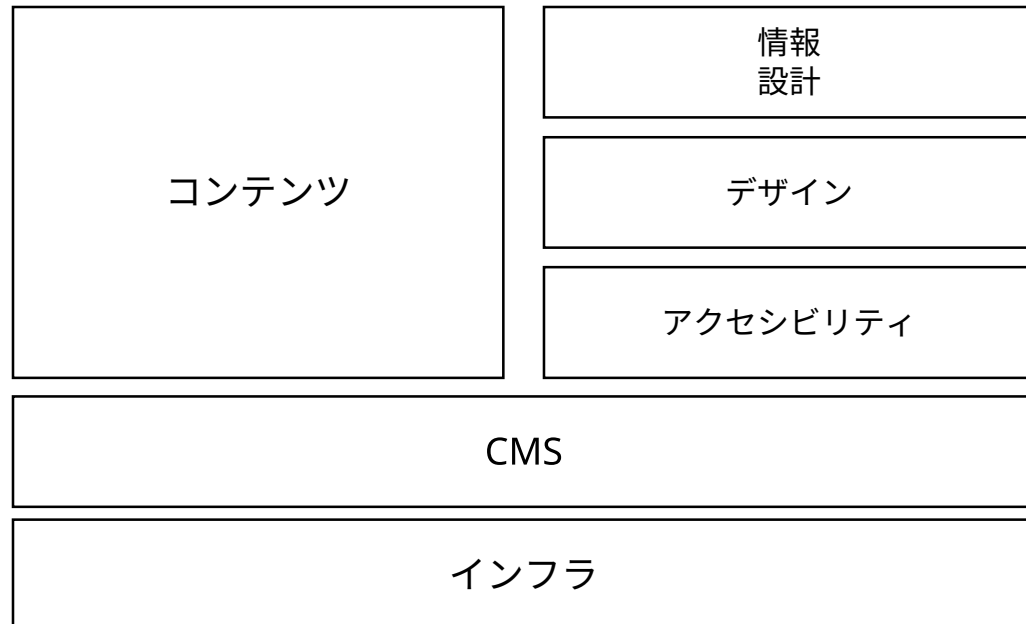
事例等

標準化・統一化のスコープ（参考）

ウェブサイトに係る設計・構築～運用までを対象に必要な要素を標準化・統一化

構成

ウェブサイト構築に必要な構成要素



運用業務

ウェブサイト運用に必要な業務要素



アクセス解析等による利便性向上



情報発信方法による伝わりやすさ向上



文章の書き方による伝わりやすさ向上



情報のアーカイブによる運用負荷軽減

デジタル庁ウェブサイトにおいて実施した事例

デジタル庁ウェブサイトにおける取組

デジタル庁ウェブサイトでの実証



取組

- アクセシビリティ・デザインシステムを担保したサイト構築
- 上記を担保し、再利用できるCMS開発

成果

- 誰でも容易に閲覧可能な文字、色の採用
- 障害者支援端末に対応
- 利用者中心の画面設計
- ウェブアクセシビリティ担保のための運用フローを構築
- 上記を再利用できるCMS

アクセシビリティデザインシステム



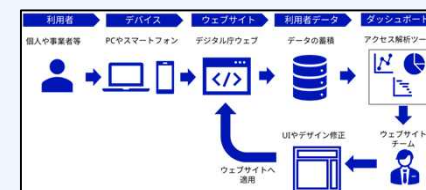
取組

- 障害のある方の利用を考慮した開発ガイド公開
- サービス開発を助けるデザインシステムを公開

成果

- 効率的な開発
- 専門家でなくても理解できる
- PV数：53,300
- ダウンロード数：3,900

ユーザビリティ向上施策



取組

- デジタル庁ウェブサイトアクセシビリティ解析ツールにより分析
- 利用者のデータ活用をした改善フローの構築

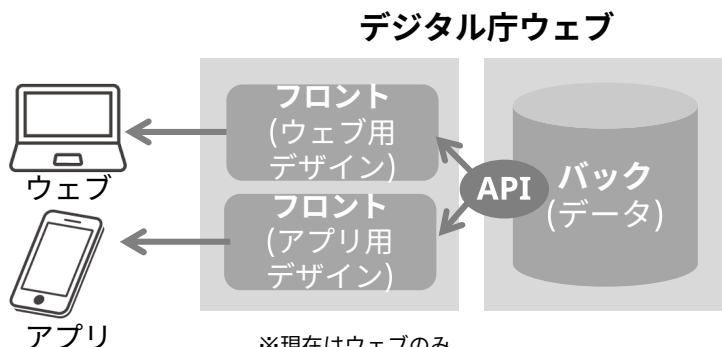
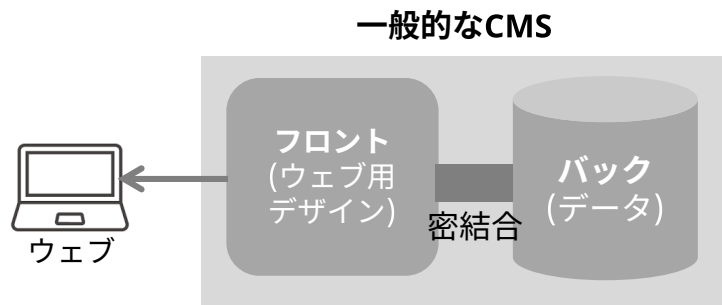
成果

- データに基づく利用者特性に応じたユーザビリティの改善

データ再利用性・汎用性の確保

再利用性を考慮したヘッドレス構成

- デザインシステムを適用しやすい
- データを再利用しやすい



※現在はウェブのみ。
将来的にアプリ等への対応がしやすい。

汎用性を考慮したオープンソースの活用

- 機能を拡張できる
- ライセンス費用が不要



CMS (コンテンツ管理システム)

HTMLなどの専門知識がない方でも、簡単にウェブサイトの作成・更新・運営ができるシステム



フロント用のソフトウェア

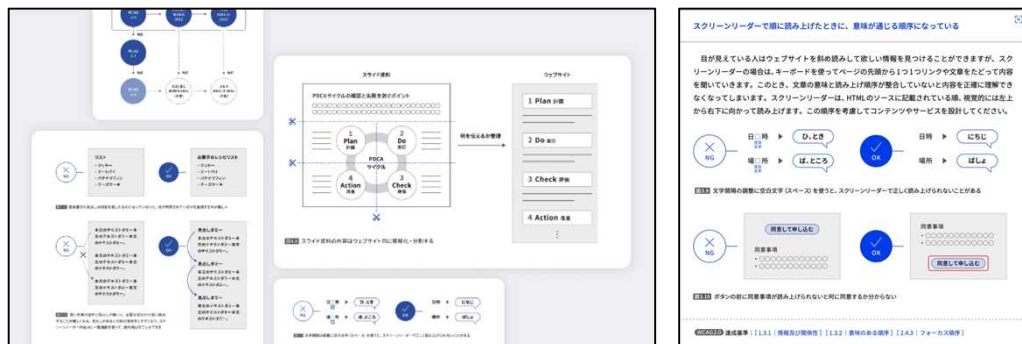
アクセシビリティの担保

デザインシステムとアクセシビリティの取組

デザインシステム



アクセシビリティガイドブック



デジタル庁ウェブサイトでの実証

PCサイト



スマホサイト



デジタル庁ウェブサイトの特徴

- 誰でも容易に閲覧可能な文字、色の採用
- 障害者支援端末に対応
- 利用者中心の画面設計
- ウェブアクセシビリティ担保のための運用フローを構築

アクセシビリティの取り組み

障害のある方の利用を考慮した開発ガイドも公開

「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化」を実現するため、継続的にウェブアクセシビリティの向上に取り組めます。

まずは知ってもらうことから

ウェブサイトだけではなく、申請・手続等におけるデジタルサービスの重要性が増す中で、より多くの方がウェブアクセシビリティに取り組めるようにする必要があります。

専門家でなくても理解できるように

最新の技術動向を踏まえた、初心者が学習できる研修資料が不足しています。ウェブアクセシビリティに初めて取り組む方向けに、基本的な考え方や始めるうえでのポイントなどをゼロから学べるガイドブックを公開しました。



デザインシステムの公開

サービス開発を助ける「デザインシステム」を公開

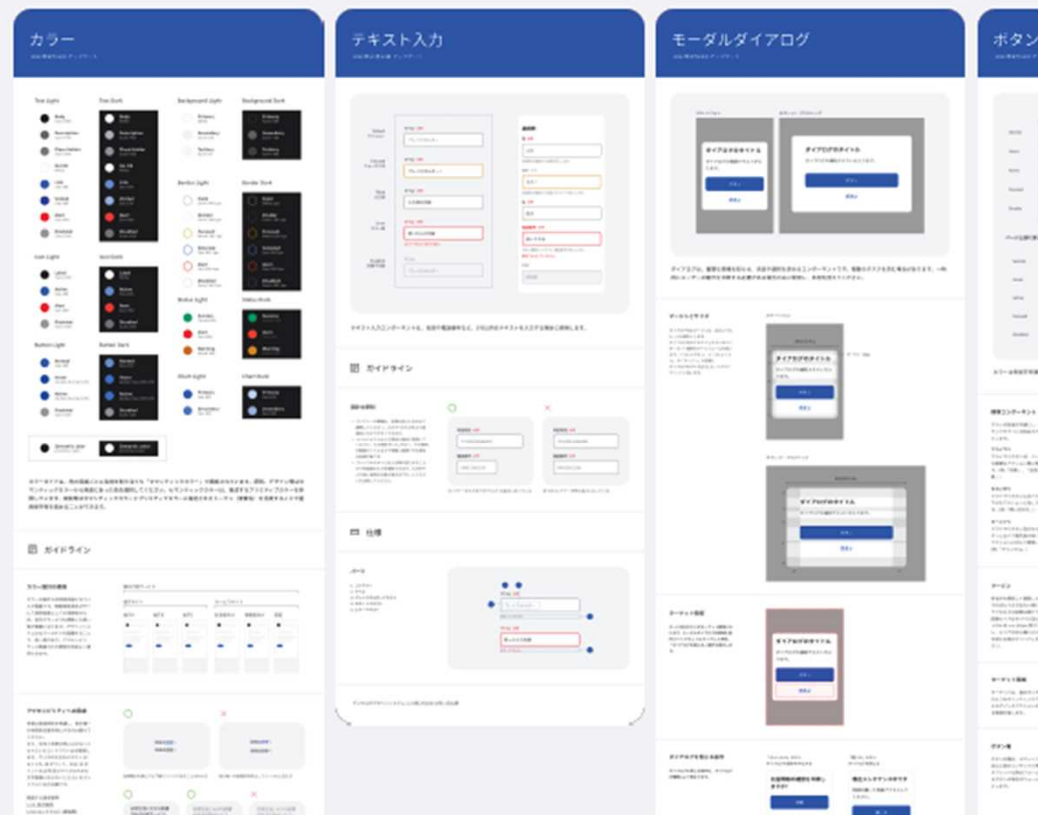
デザインシステムとは、一貫したデザインや操作性でウェブサイトやアプリを提供するための仕組みです。

効率的な開発へ

より良い行政サービスを提供するためには、アクセシビリティ（誰もが利用できること）とユーザビリティ（使いやすいこと）の検討に多くの時間と労力が必要です。既存のサービスで使い勝手が検証されているデザインパーツやテンプレートを再利用することで、効率的なサービス設計を実現します。

より使いやすく

デザインがサービスごとに異なると、利用者は操作方法をつと学び直すことになり、「分かりにくい」と感じやすくなります。操作方法や情報の見せ方を統一し、利用者の負担を減らすことで、信頼してもらえるサービスづくりを目指します。



デザインシステムの普及

府省庁、自治体、事業者の方々が自由に利用できるように

デザインシステムに関する情報やデータをデジタル庁ウェブサイトとFigmaで公開中。今後も定期的に更新します。

デジタル庁ウェブサイト
デザインシステムページの閲覧数

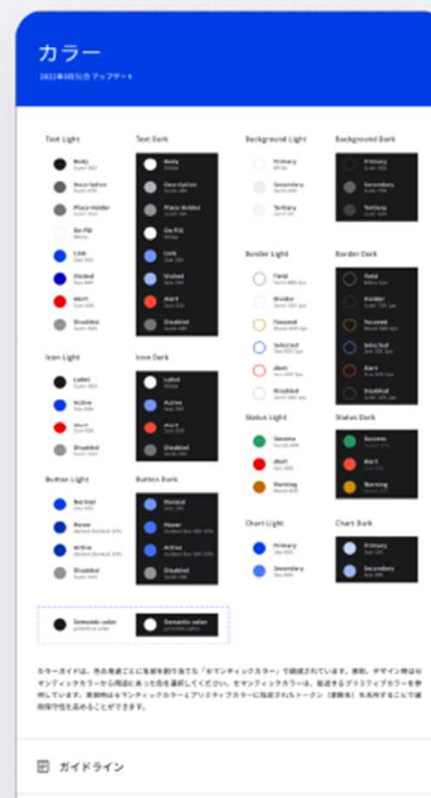
(11月11日-12月11日)

53,300 以上

デザインシステムのダウンロード数

(12月現在)

3,900 以上



デザインシステムの適用事例

デザインシステム適用前

膨大な開発時間。使いやすさは不十分

開発には多くの関係者が関わるため、前進するのに膨大な時間がかかります。認識の違いや誤解も生じやすくなってしまいます。



デザインシステム適用後

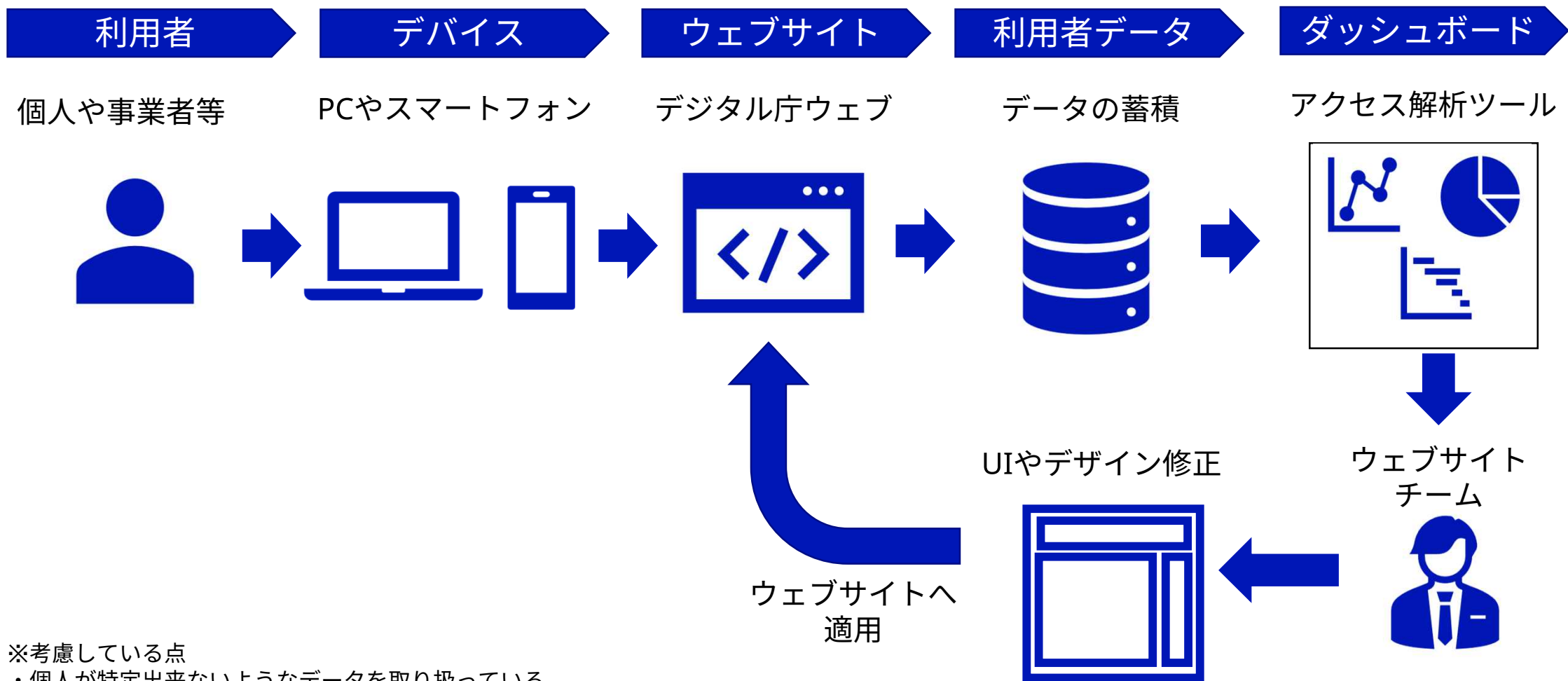
素早く開発。使いやすいサービスに

専門家や既存のサービスから得られた知見を反映した画面デザインを継承することが可能に。開発チームはより大きく複雑な課題解決にリソースを割り当てられるようになります。



ユーザービリティ向上施策

利用者のデータ活用をした改善フローの構築



※考慮している点

- ・個人が特定出来ないようなデータを取り扱っている
- ・海外へのデータ流出などを配慮したツール選定

その他の取組

子ども家庭庁ウェブサイト構築

子ども家庭庁のサイトの立ち上げ

良かった点

課題点

2023年1月プレサイト立ち上げ



- 既存のCMSやデザインを利用できた
- 短い期間で立ち上げすることができた
- 子ども家庭庁側の調達作業が軽減ができた

- 必要な要求の優先度がデジタル庁と子ども庁で相違しており、優先度調整が難しい
- 子ども家庭庁の追加要求対応のため、デジタル庁側にもデザイナーやPMなどのリソース確保が必要
- 既存コンテンツがあると、新しいCMS仕様に合わせて移行作業が発生



※4月に本サイト立ち上げ

古いデータのアーカイブ化

CIOポータルコンテンツのアーカイブ対応によるコスト削減の実証

コンテンツをアーカイブ静的HTML

コンテンツ管理システムでの運用を終了。
 現時点のスナップショットをアーカイブした静的HTMLを公開する
 →効果：運用保守コスト削減



アーカイブで変わることも変わらないこと

変わらないこと

- 各ページのURL
- デザイン

変わることも

- ページ内容の変更不可
- 動的コンテンツは停止
 - ITダッシュボード
 - 各種報告書の検索
 - フォーム



課題・今後の取組

判明した課題

ウェブサイトへのアクセス方法の変化を踏まえた対応の必要性

- パソコンを使用して省庁ウェブサイトアクセスし、省庁ウェブサイト内のガイドに沿ってブラウズする形態から、スマートフォンを使用して検索エンジンにアクセスし、検索結果から該当する省庁ウェブサイト内のページを直接ブラウズする形態に変化

ウェブサイト構築コスト


- デジタル庁が他省庁のウェブサイトの構築に関与するためには一定のリソースが必要
- 省庁ウェブサイトによって求められる要求に制限をかけた統一化が難しい
- 既存コンテンツを新ウェブサイトの仕様に合わせた移行費用が膨大

今後の取組

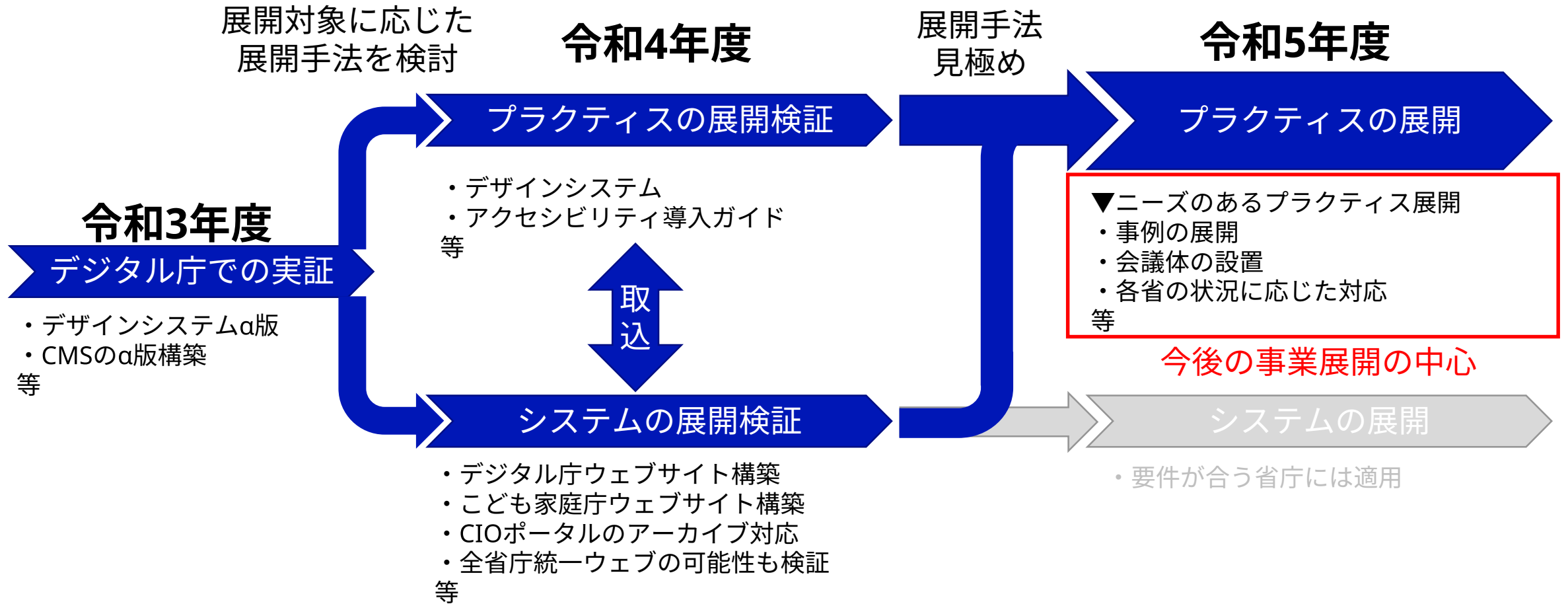
デジタル庁に求められる 対応

- デジタル庁においては、デザインシステムを活用し、デジタル庁ウェブサイトの継続的な改善を実施(運用を多くの人が行っても、使いやすさが保てる仕組みづくり)
- デジタル庁のデザインシステムを活用することにより、各府省のウェブサイトのユーザビリティ・ウェブアクセシビリティ向上に貢献
- 各省庁を巻き込みウェブサイトが改善する仕組みを検討展開していく。

- デジタル庁ウェブサイトの改善を通じて、様々な課題に直面し、対応してきた経験及び改善効果の分析
- 子ども家庭庁ウェブサイトの構築を通じて、様々な課題に直面し、対応してきた経験
- デジタル庁が投入できる資源の制約

- 
- 各府省が自ら魅力あるウェブサイト構築を行うことができるよう、コミュニティの育成及びリファレンス、パーツの提供の推進

今後の進め方



プラクティスの展開を中心に進めたいと考えている。その点についてご意見をいただきたい。

デジタル庁

Digital Agency